第33回区民車座集会意見交換内容（川崎区）

- 1 開催日時 平成30年2月14日（水） 午後6時30分から午後8時05分まで
- 2 場 所 カルッツかわさき大会議室
- 3 参加者等 参加者12名、傍聴者約23名 合計35名

<開会>

司会：それでは、定刻となりましたので、ただいまから第33回区民車座集会を開催します。

私は本日の司会を務めます、川崎区役所まちづくり推進部企画課の金井と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日の車座集会は、「区民の地域参加を応援し、共に創りあげる地域社会」をテーマに、大規模マンションと既存町内会の融合や、さまざまな地域資源を活用しながら積極的な地域活動を行っている五つの団体の発表をもとにして、区民の地域参加の促進や、地域の出会いやつながりによる市民活動の創発に向けた新たな可能性を模索してまいります。

本日、取組事例を発表していただきますのは、笑寺かわさき様、富士見一丁目町内会様、下並木町会様、男友会様、大師まちゼミの会の皆さんでございます。また、発表団体の取組と出会いつながった皆さんにもお越しいただいております、初めに5団体の皆さんからの発表と関連する方々からのコメントをいただき、その後、市長と取組や、取組の今後の展開に関する意見交換を行います。

続きまして、行政からの出席者を紹介させていただきます。

福田紀彦川崎市長でございます。

市長：どうぞよろしくお願いいたします。

司会：土方慎也川崎区長でございます。

区長：どうぞよろしくお願いいたします。

司会：それでは、福田市長から御挨拶申し上げます。

市長、お願いいたします。

<市長挨拶>

市長：皆さん、改めましてこんばんは。よろしくお願ひいたします。

今日は平日のちょっと遅目の時間からということで、お忙しい中、お集まりをいただきましてまことにありがとうございます。

区民車座集会も始まって5巡目を、毎月1回、各区を回ってやっていますけども、33回数えていますから、5巡目に入っていると思いますけども、毎回違うテーマで意見交換をさせていただいておりますけども、先ほど司会のほうからお話あったように、地域での活動で新しい住民の方とか、いろんなものをつないでいただいている地域活動をやっていただいている方に今日は発表をいただいて、またディスカッションさせていただければと思っています。

また後ほどゆっくり私も話したいと思うんですが、川崎区もものすごく動きが激しく近年なってきました。この数年は、区長からも、先ほど話してたんですが、毎年大体1,000人ぐらいつつ人口が増えて

るということでありまして、大きいマンションがぼんと建つと、その地域は、そのマンションのところの町会を見ると、急に若い層が入ってきて、全体で見ると高齢化率はぐっと下がるんだけど、しかし、じゃあそのマンションの住民じゃないところというのは確実に高齢化が進んでいて、もう少し全体で見るところと、もっと地域の細かいところを見ていかないと、なかなか見えてこないところというふうなのもあると思います。ですから、そういうものすごく激変している川崎区の中で、どういった新しく入ってきた方とかと、既存の住んでる方と融和していくかと、あるいは町内会活動にも参加していない方にどうやったら入ってもらえるかと、こういうつながりをつくることができるかというのを、お互いに知恵を出しながら地域のきずなづくりというふうなのを進めていかなきゃいけないという中で、モデル的な取組をさせていただいている方に今日は発表いただいて、私も勉強させていただきたいというふうに思っています。今日はどうぞよろしくお願ひいたします。

司会：市長、ありがとうございました。

<意見交換>

司会：それでは、一つ目の取組発表は、お寺を場として地域の縁側活動に取り組む笑寺かわさきの取組です。発表の冒頭では、笑寺かわさきで実践している笑いヨガを参加団体の皆さんにも体験していただきたいと思ひます。

それでは、笑寺かわさきの若林様、よろしくお願ひします。

若林さん：皆さん、こんばんは。笑寺かわさきの代表をしています若林と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

笑いヨガ、皆さん、知ってらっしゃる方もいると思うし、知らない方もいらっしゃると思うんですね。笑いヨガ、ちょっと皆さんに体験していただきたいと思ひますので、一緒にやっていただきたいと思ひます。

この笑いヨガ、いきなりやるとあれですから、1分間だけ説明させていただきます。笑いヨガとは、笑う動作をする健康体操です。これ、おもしろさに頼らず、もう体操として笑います。ですから、私たち、呼吸していますので、その呼吸に、は、は、は、は、はという言葉をつけます。それだけで私たちの体は笑っているって錯覚をしてくれます。もうそうして、どんどん私たちの体を元気にしていきましょうということをやっています。

この笑いヨガとは、笑いを健康体操とヨガのようなゆっくりした呼吸をあわせて笑いヨガと呼ばれています。ですので、ヨガみたいな難しいポーズもとりませんし、体操みたいに決まったポーズもありません。もうここは楽しくやっていきたいと思ひます。

この笑いヨガ、1995年、インドのムンバイの医師、マダン・カタリアが考案しましたが、今ではもう世界100か国以上で行われています。日本も今、全国でやっていますが、ここでやるのは、私がやってる日本笑いヨガ協会というところで教わった笑いヨガをやりたいと思ひます。

では、皆さん、まず、第一のステップ、手拍子からいきたいと思ひますので、ちょっと一緒に手をたたいてほしいんですが、8回手をたたいて、いえいと言って手を挙げてください。では、皆さん、一緒にいきます。1、2、3、4、5、6、7、8、いえい。あつ、いいですね、皆さん。では、笑いヨガ、リズムがあります。こういうリズムです。1、2、1、2、3、1、2、1、2、3というリズムです。では、皆さん、これも一緒に手をたたいてください。では、一緒にいきます。1、2、1、2、3、1、2、1、2、3、1、2、1、2、3、いえい。いいですね。

では、今度、笑いヨガ、かけ声があります。ほっほっ、は、は、はというのが笑いヨガのかけ声です。何

ではちょっとやってなかったんですけども、この地元でもやりたいという思いがずっとあったんです。そんな思いを本当に地域包括支援センターの方とか、いろんな方たちが取り持ってください、川崎でできるようにしました。

本当に、先ほど言ったように、もういろんなところの町内の方とかの応援のおかげでできたんですが、こういうのを始める場合って、すごく会場探しにすごく困難するんです。もう会場探しだとか、ピラ配りとか、そういうので一番苦労するんですけども、私は皆さんのおかげで会場探しにも苦労せず、そうやってお寺さんともまた御縁ができて、お寺さんが気持ちよく貸していただいて、もう会場代もお金を取らずにできました。そういうことが本当にできるきっかけになったんです。

この笑いヨガ、私1人ではできる力というのは限られてしまっていますが、そうやって地域包括支援センターの方、それからあと社協さんのところの、ちょこボラさんたちがおいしいコーヒーを入れてくださったりとか、そういう御縁ができて、どんどんどんどん広がって行って、皆様に喜ばれています。

この笑いヨガというのは、やっぱり普段、うちに1人でいて、声を出さない方とか、そういう方たちがここに来てくださって、声を出して体を動かして、おいしいコーヒーを飲んで、まあ、本当に良かったって言うてくださるのが、もう一番の私の喜びです。やっぱりこうやって皆様と色々な方たちの縁ができて、この笑いヨガができたというのは、本当にいいきっかけだったと思います。私もやっぱり1人では難しいですが、そうやっていろんなところが集まってできると、大きなものになってどんどんどんどん活動が広がっていく、それを実感させていただきました。そんな発表です。皆さん、ありがとうございました。

司会：若林様、ありがとうございました。

次の取組発表は、区域内に建設されたマンションとの融合に取り組む富士見一丁目町内会の取組です。会場前方に飾ってありますバルーンアートは、この後、発表していただきます富士見一丁目町内会長、内野様が作成したものでございまして、内野会長のバルーンアートは地域のさまざまなイベントで喜ばれています。

それでは、富士見一丁目の内野様、佐藤様、前のほうへよろしく願いいたします。

内野さん：大変若林さんの饒舌な挨拶には感動しまして、震えております。それでは、富士見一丁目町内会、私、内野と申します。

まず、取組方、まず、老人会の交流サロン、そして公園清掃を通じたマンション住民と既存町内会の緩やかな融合についてお話しさせていただきます。

私たちの、まず場所ですが、富士見公園を見まして、私たちは北側に位置します。御存じのように、こちらの、まさに今日のカルッツかわさき、この場所ですね。そして、川崎競馬場、これに位置する町内会のこの周辺でございます。御存じのように、面積は非常に広域であります、住宅地は非常に少ない場所でございます。

そこで、町内会の、この富士見一丁目町内会と、それから川崎市全体の世帯数、人口、それから高齢者人口、高齢者人口割合、年少人口、年少の人口割合、世帯数、そして町内会加入世帯数、これは見てのとおり、表がスクリーンに表示されておりますが、全体を右側に見て、富士見一丁目の特徴だけ申し上げます。

人口は1,964人、そして高齢者人口は176名、その人口割合は8.9%、非常にこれは全体としては割合が少ないわけですね、そして、年少人口は412名、そして年少人口割合、これ20.9%、これは逆に、先ほど市長さんがお話になったように、マンションが、また賃貸マンションができましたので、若い世代が入ったために20.9%ということになっております。世帯数は855世帯です。町内会加入世帯数は約50世帯ということになっております。区域内に平成18年2月に竣工したラ・ヴィータシティやURの賃貸住宅があるため、年少人口の割合がとても高い地域であります。

簡単に申しますと、富士見一丁目の町内会加入状況ですが、戸建ての世帯、ほぼ全世帯が町内会に加入しております。右上のマンションですが、こちらは大型マンションで、約250戸入っております。そこに入ってる、町内会に加入している世帯は10世帯です。それから、下のほうですが、UR賃貸住宅が550戸ございます。ここにおいても、ほぼ町内会には加入しておりません、若干名おります。

町内会と大型マンションの融合のについて。これは、当初、マンションごと富士見一丁目町内会に加入する予定でしたが、これはマンション住民全員の合意が得られず、個別に加入することになったわけです。町内会側の考えとしては、無理な勧誘はしないと。これは、ただし町内会の案内、そして検討をしてもらうという呼びかけはいたしますが、それ以上のことにしつこく勧誘はしない。なぜならば、それは無理に加入してもらっても、本当の活性化にはならないだろうという思いがあるからです。

そして、まずは町内会活動を理解してもらうために、町内会の未加入者、拒むことなく活動に参加してもらおうことにしております。例えば、それは公園の手入れ、いわゆる掃除であったり、それから植栽であったり、そういう中で皆様に集まってもらう。そうすると、そこにおいて当然地域の情報の得られる場所でもあり、また、安否確認もできる、そういう場であることとおっしゃるわけですね。ですから、そういう公園の掃除が一番身近に集まる場所としては考えられるので、そうしております。

そして、町内会の未加入者も参加できる老人会、交流サロン、会食会、これについては、まず、ごみ出しの際に挨拶をする。基本ですが、声をかけることできっかけをつくり、活動に誘うようにしております。これは老人会会長の佐藤会長による、これは積極的に取り組んでいることであります。

そして、町内会役員会や老人会の活動の場所として、これはマンションの集会所を利用させてもらっております。そこは非常にコミュニケーションがとれておりますんで、ぜひ使ってもらいたいと、このことにおいては御了解もらいました。そして、この調整においては、書いてありますが、実は交流サロンということにおいては、地域の不特定多数の方が参ります。そこにおいては、しおんのここに来ておりますが、栗原さんのお骨折りもあって、その調整に労をねぎらってもらいました。そして、無料でお借りすることができました。そういう中で、これから説明ありますが、老人会長の御活躍を、実は私たちは非常に頼りにして、また、これからも頼り続けるつもりでおります。

それから、交流サロンに参加したことにおいて、町内会に実は加入してくれた、そんなマンションの方々も若干おまして、まずは老人会に入って、その町内会の居心地を見てもらって、そして入会してもらって、これが自然体の私たちの考え方で取り組んでおります。

これから、富士見一丁目老人会の活動においては、我が老人会会長、佐藤好子さんにバトンタッチします。よろしく申し上げます。

佐藤さん：何か余り褒められて恥ずかしいんですけど、一応写真で見ていただくのに、いろいろ町内会の老人会としての、1年に何回もやってますけど、ラ・ヴィータシティの集会所が使えるということで、すごくいろいろなことが、先ほどの笑いヨガの若林さんにも来ていただき、いろいろなお友達の方に、何かできる踊りとか、ほかの町会のダンスとか輪踊りとか、みんなその月によって、それを考えるのがちょっと大変なんですけど、みんながボランティアでやっていただいています。

真ん中のは、1年間で老人会費は1,500円いただいているんです。町会からの補助が5万円あります。それと、市のほうからのあれが7万2,400円ですか、入ってますので、それで全部やっております、年間の行事は。もうすごい足りないんですけど、やはり町会も大変ですので、少しでも出していただけるようにいろいろせびってます。

でも、皆さんがいろいろ持ち寄っていただいて、今回はおはぎを皆さんにつくってくださったり、鳥の唐揚げをつくってくださったり、そういう差し入れのほうがすごく多くて、本当に安いお弁当ですけど、それ

で豚汁とかもみんな前日につくって、大体50人分ぐらい作って、皆さんそれが一番評判がいいんですね。そんな感じですね。あとは、しおんにみんなを連れてって、いろいろなそういう行事にも参加させたり、一番下はひとり暮らしの会食会ですね、それのお料理なんですけど、それはうちの町会が当番のときに作ったものです。

そんな感じで、老人が175名、高齢者がいるというところで、老人会に入っているのは、町会では38名、そのうち昨年、悲しいことに4名亡くなったので34名になってしまったんですけど、このところまた1人増えたり、やはりごみ出しに行くときに声かけとか、おはようございます、今日は元気ですかというような感じを簡単にしていくのが一番あれかなって。それでマンションの出入りのときも、どこへ行くのという、やっぱりお年寄りというのは声かけないと、何かしゃべりたいんですね、しゃべりたいんだけど、しゃべる場所がないんですね。だから、すごく喜んで出席していただけます。

以上です。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

内野さん：最後に、私の考えで、町内会活動の原点は何かということで、思いましたことをちょっとお話しさせてもらいます。

私は、まず3年目なんです、町会長になって。だから、新参者でありますということで、~~まず~~わからなくてやってるわけですが、まずは自分の、この町に住んでよかったと、そしてこの、いわゆる町内会に入ってよかったという、そういう思われるようなまちづくりを目指しております。私はこれが基本だと思います。

それで、町に結局溶け込んでもらえるかとか、そういうことは、まず引っ越した方、まず戸惑いとか不安とか、新しい生活をこれからやっていくんだけど、どう向き合っていこうかな、この町会とというのがまずスタートだと思うんですね。ですから、そういうときに、この町に入ってよかったという、さっきの、感触を持つような方をみんなが町会で持とうじゃないか、共有していこうじゃないかと考えがあります。町会というのは、みんなで作くり上げるものだと、協力して、そういうものだというのを考えて取り組んでおります。

ですから、問題は、車座集会の意義にすぐ戻りますが、これは、こういう機会を持った市長の、これみずから、この区民の車座集会に出向き、区民と意見を交換しているのは、地域に出て話を聞き、知恵を出し合って問題解決に臨むという、職場の職員一人一人のメッセージだと僕は考えてるんです。ですから、ここでやることは、皆さん、自分のエリアの職員の方は、ぜひその地域に積極的に出て、一緒にこのまちをよくしていきたいという考えを持ってくれよと、そんなメッセージじゃないかと私は思ってます。そして、地域の中で何が問われているのか、何が問題なのか、そういうことを自問自答して職についてもらったらしいなど、そう思います。

今後に向けては、これから戸建ての子供とマンションの子供は交流を、できるだけいいものができるように、きっかけづくりをしたいと、そう思ってます。終わります。

司会：内野様、佐藤様、ありがとうございました。

今、二つの中で話の出てまいりました、しおんの栗原センター長から一言コメントをいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

栗原さん：しおん地域包括支援センターの栗原と申します。よろしくお願いいたします。

しおん地域包括支援センターの担当エリアには、まちの縁側というのが1か所もなく、ずっと気になっていたんですね。今回、若林さんとか住職と知り合えたことは、本当にラッキーだったと思います。

初めての取組なので、戸惑いも大きくて、まちの縁側の第1号であるひまわり会さんのほうに視察に行っ

たり、これは地域ケア推進担当の方ですとか、みまもり支援センターの方と一緒に行って手助けしていただきました。また、町内会の皆様、社会福祉協議会のカフェボランティアの皆様と一緒に、どうなんだろうねって、はらはらどきどきわくわくしながら立ち上げられたという、この経緯に関しては、とても励みになっていますし、包括としての強みにもなっていると思います。

笑いヨガなんですけど、閉じこもりだった方が、いつの間にか大きな口をあけて笑って、いえい、いえいって言ってる姿を見ると、本当にいいなと思います。人が人を呼んで、つながりができて、今、まちの縁側も大きく広がっていくので、本当にこれから楽しみにしています。

そして、富士見一丁目の交流サロンなんですけど、参加させていただくんですが、毎回にぎやかで和気あいあいとしています。佐藤さんとか内野さんの、みんな閉じこもりにならないでねって、元気になるうねという、すごく熱い思いがあって、その熱い思いを周りの方々が支えてくださっている。そして、自分たちのことは自分たちでと励まし合って、盛り上がってるような感じがしていいなと思っています。

このサロンも口コミで広がっていますよね。そして、こういうサロンもつくりたいなという声もまた聞かれています。サロンのほうでは、気になる方の相談を受けたり、状況を把握したりと、相談窓口として身近に感じていただけているので、これもありがたく思っています。

これからも、この地域のお年寄りだけではなく、若い世代の方々も一緒に元気になっていけるような、そういう、つないでいけるお手伝いをしたいと思っています。ありがとうございました。

司会：栗原様、ありがとうございました。

次の取組発表は、同じく区域内に建設されたマンションとの融合に取り組む下並木町会の取組です。

それでは、下並木町会会長補佐で川崎サイトシティ管理組合の初代理事長でもございました櫻井様、前のほうによろしく願いいたします。

櫻井さん：皆さん、こんばんは。ただいま御紹介いただきました櫻井でございます。

下並木町会の活動について、大規模マンション世帯が既存の町内会に一括加入をしたということを基盤にお話をさせていただきます。

私が今、一居住者として川崎サイトシティに住んでおりますけれども、ちょうど12年目を今年で迎えております。ですから、その1年目から町内会に一応加入を全体でしていると、こういう前提でございます。

下並木の場所でございますが、皆さん、御存じだとは思いますが、八丁畷の駅を左右に分かれて、右のほうに池田町がございまして、あと、日進町、堤根、そういう形の中で囲まれております。それで、一番南側に横浜市鶴見区の隣接している市場上町というところがあるんですが、そこがちょうど川崎と横浜との境になりまして、近年、皆さんと一緒にやってる旧東海道のウォークラリーですね、その夫婦橋というところがチェックポイントにもなっております、そういう場所でございます。

あと、下並木の人口、世帯数等についてでございますが、川崎区全体と比較した中で、一番の全体に今、高齢者の人口割合が16.5%、年少人口割合が17.0%と、それから世帯数が1,550世帯の中で町会に加入している世帯数が1,150世帯ということでございまして、当然、サイトシティが出て12年目になりますけど、毎年、新1年生が、大体川崎小学校へ約9割以上のお子さんたちが通います。40名ぐらい毎年。ですから、大体1学年で1学級、新しい新入生が入ってるという、これがマンションの大きな一つのあれでございます。

まあ、まずは大型マンション全体で下並木町会に、じゃあどうして加入をしたのかということでございませうけれども、平成18年のマンション建設当時、大型マンション全体が下並木町会に加入させることを決めたというのが、まず町内会での話でございます。当時の町会の判断は、約600世帯の町会に大型マンショ

ンの約500世帯が加われば、町会が乗っ取られてしまうんではという意見も一部あったと、そういうふうにお聞きしています。町会の役員活動は負担も大きく、乗っ取られたらマンションの人たちに町会を運営してもらえばいいじゃないかというような形で受け入れる方向に決まったそうです。

一番のあれは、当時の町会長が積極的に不動産業者に働きかけて、マンション管理規約の、これは川崎サイトシティの附帯細則事項に町内会に加入するということが付されたことで、結局、既存の町内会の円滑な融合につながったというのがポイントでございます。ですから、私どもは、新しく入ったときには、そういう管理規約、契約書の附帯事項の中に、町内会に入るんですよということが決まっていたということが事実でございます。まあ、その後はそれぞれ問題がございますが、とりあえずそこからスタートはしております。

マンション世帯が加入して、下並木町会の現在の状況でございますけども、当然、町会費の収入が増えた。それで納涼祭、山王祭に還元、いわゆる出店の販売金額を低額にして、子供たちへのお土産を充実できたということ。それから、町内会館の修繕費の計画的積み立てが可能になったということ。それから、町内会の会報を今までモノクロ、白黒でやってたものを、「そよかぜ」という町内新聞をカラー化したと、こういうことでございます。

それから、若い町会役員が増えた。まあ、これは今、ここに記載してございますように、マンションから若手中心に現在5人が町会役員にと。実は、このうち4名ですね、私を含めて、設立当時、加入した当時から4名の人は今現在も町会の役員を一緒にやってくれております。これも非常に大きいことだなというふうに思います。それから、当然、町会の役員にマンションから出てる人間だけじゃなくて、ほかの若い住民の方も、いろいろなイベントのときには町会住民に協力をしてくれてるのは実情でございます。子供たちが増えて、イベントに活気。先ほど申しましたように、納涼祭、山王祭、ラジオ体操などが大盛況。餅つき大会の共催、防火訓練の連携、そのほかもろもろでございます。

最後に、町会の活動様子ということで、写真に掲載させていただきましても、一番左上が餅つき大会、真ん中が納涼祭、山王祭、カリン収穫祭、ラジオ体操と、それから子供の見守り隊というようなことで、そのほかもろもろございますが、このような形で、とにかく子供たちが元気に明るく町会のイベントにも出てきてくれるし、そういう形の中でこれからも頑張っていければなというふうに思っております。以上でございます。

司会：櫻井様、ありがとうございました。

続きまして、下並木町会で現在会長代行を務めていらっしゃる相馬会長代行から、町内会とマンションの関係についてコメントをお願いしたいと思います。

相馬さん：皆さん、こんばんは。町会長代行をやってます相馬と申します。

今、櫻井さんが大変に立派に説明していただきまして、ありがとうございます。それで、町会とマンションのつながりが、今第一の、マンション理事長の櫻井さんが非常に頑張ってくれて、町会と円滑にいくように働いていただいているから、今の下並木の町会がすばらしい町会と私は思っております。それで、先ほど言いました納涼祭とか、そういうのにも非常に皆さん喜んで参加してくれているので、ありがたく思っております。

私からは、ちょっと緊張してますんで、以上でございますので、よろしく申し上げます。ありがとうございました。

司会：相馬様、ありがとうございました。

次の取組発表は、地域包括支援センタービオラを拠点にシニア男性の地域参加に、最近新聞などで取り

上げられる機会も増えている男友会の取組です。

それでは、男友会の山崎様、前のほうにお願いいたします。

山崎さん：今、御紹介いただきました山崎です。よろしくお願いします。

この男友会というのは、よく市でやってる体操がありますよね。それね、3週間とか6週間で終わりなんですよね。そして、後はだめって。それじゃあせつかく市がね、皆さん、うちにいないで出てきなさいと呼んでおいて、だめじゃ困るんです。私どもも、それを瀬戸会長という方と一緒にあって、ここは大丈夫だろうという抽せんしたら、2人とも落っこったんですよ。そしたら、ちょうどこのビオラでよろばた会という月1回の催しがあったんで、それへ行こう行こうって、あんまりあれでなかったんですが、行ったんですが、そうしてから、ちょうどそこに、そこの包括センターの方がね、空いてるところがあるから体操でもやったらって。それで、ちょうどその場所にボランティアで体操を教えてくれる女性の方が2人いらっしたんで、じゃあやりましょうって、初め7人から始まったんです。

ところが増えちゃってね、場所が場所ですから、20人ぐらいがちょうどいいんですよ。それを30何人になるとね、これはちょっとまずいなと思って、ちょっと中止しようかという話をしたんですよ、募集をね。そしたら、ビオラの方に、何でせつかく、あんた、評判もよくなってきたのに中止するんですかって、午前中から午後までやりなさいよって、午前版と午後とやりなさいよって言われたんですけど、それでは私の体がもちませんので、それで体操は2時間ぐらいで終わるんです。それで終わった後、男ばかりなものですから時間が余るんですよ。御婦人の方は食事の支度とかあって急いで帰られるんですけど、男ばかりなものですから、時間がちょっと早過ぎるんじゃ、じゃあ将棋とか囲碁とかマージャンとかやろうじゃないかという話になって、やったらね、私は一番将棋が集まるかなと思ったらね、マージャンが一番だったんです。このごろは、女の方もマージャンに来るのが多いんですよ。それで、ただ、絶対お金はかけちゃだめ、そういう決まりがあるんですよ。そして、機械も自動じゃなくて、指の運動をするために自分らで作った機械で。だから、要するにお金をかけないようにということもあるし、運動にもなる。そして、脳を活性化させるということが大事だからということね、それをやっとするんです。

そうしたら、今度はまた、ある人からね、吹き矢がいいんだってよって聞いて、じゃあ今度は吹き矢やろうかって言ったらね、またこれが、狭いこれぐらいのところに、20人が吹き矢はいいとこですよ。それで30何人も集まっちゃって、これももうだめだなと思ったら、ちょうど役所の方のあれで、田島のほうに一つ会場を貸していただいて、今度、2か所に分けてやっとするわけですよ。それでこの吹き矢というのが何でいいかという、我々、年配になると、下のほうがちょっともろくなるんですよ。その筋肉を鍛えるためにいいんだそうです。私も何で吹き矢が大腸がんがいいのかなと思ってわからなかったんですけど、聞いたんですよ。そしたら、要するに、大腸とか膀胱とかを鍛えるのいいんだって。だから、年配者にはすごく向いてるスポーツだと。それにゲーム性を絡んだということだけで。ところがね、これもまた増え過ぎちゃってね、ちょっとこんなに増えちゃ困るなと思って中止しようと思ったら、包括センターの人に叱られたんですよ、新聞社から、あっちからって大勢来んのにな、やめられたら困りますよって。

そうして、皆さんも、もし町内でよかったら、我々のところへ、二度見に来て、ノウハウを覚えて、そして自分たちでやると、絶対これは、特に女の人に人気があります。だからね、ぜひやってみてください。これはね、私も初め、吹き矢なんて子供の遊びだと思ってばかりにしたんですけど、やってみると、本当そんなものじゃないですから、もしよかったら、毎週水曜日にビオラでやっていますから、冷やかしていいから見に来て、二、三回遊びに来て、よし、これはおもしろいなと思ったら、自分らで立ち上げてもらいたい。立ち上げるのは、もう我々がやったんで、安く、みんな手づくりですからね。だから、安く立ち上げることはできます。だから、私どもの会はね、最初に筒と矢と的で1,000円いただくんです。あとはもう全然い

ただかない。あとは、その余ったお金で矢を作ったり、筒は500円ちょっとかかるんですよね。だから、1,000円いただいて、筒と的を作るので、ああいうのを四つぐらい吹いちゃったからね、四つじゃ足んなくなって、今六つぐらいあってもまだ足んないぐらいでね、大変おもしろいから、もし皆さんの町会でやることになったら、すごいやってみようと思ったら、お二人ぐらい、ぜひ水曜日のここでやっていますので、見に来て、ぜひ皆さんに広めてもらいたいです。これはね、絶対に、それで一つ思いますのは、女の人のほうが上手です、男はだめ。だから、この辺、女の方はね、50点ぐらいみんな出すんですが、私は初めから始めてまだ35点ぐらいしか出せない。だから、みんなにばかりにされていますけど、俺はみんなのために忙しいんだからしょうがないだろうというね。ぜひ一度お試して見に来ていただいて、もしよろしかったら、ぜひ皆さんで始めてください。

それで、一つ、私どもの会は、皆さんはほら、町内を専門にやってるじゃないですか。私どもはそうじゃない、全部やってる。だから港町から来てる人もいるし、塩浜から来ている、要するに、いらっしゃればどなたでもいって、町内関係ないんですよ。だから、ぜひ皆さんが町内でやってね、10人でやるんだったら、1人最初に1,000円で筒10本と的二つ作れば済むんで、あとは段ボールで自分で作ればいいんですから、お金かかりません。ぜひ、これは皆さんにお勧めします。

司会：山崎さん、最後に、吹き矢を実践していただいて終わっていただけたらと思います。よろしくお願ひします。

山崎さん：筒もね、これ自分でつくったんです。それでね、この、紙で500円でいい。それでこれ、お手製だよ。普通買うとね、初心者用で1万3,000円。これとね、矢羽根1本分で。それで、これじゃだめだなんて諦めたんです。そしたら、これがいいのがあったから、これでやりゃあいいやと思って簡単にやればいい。

司会：山崎さん、1本でお願いします。

山崎さん：どっか行っちゃった。ないね。失礼しました。いやあ、持ってこなかった。

司会：じゃあ、また今度、たじま家庭支援センターで、やっているようです。それからビオラでもやっているとおっしゃっていたと思いますので、ぜひそちらにご参加していただければと思います。

山崎様、ありがとうございました。

それでは、男友会の発足にも携わりました地域包括支援センタービオラ川崎の宗像様にコメントをお願いしたいと思いますので、お願いいたします。

宗像さん：地域包括支援センタービオラ川崎の宗像と申します。

本当に会の発足のきっかけが、私たちの行っておりますよろばた会がきっかけになったこと、とてもうれしく思っております。私たちの関わりなんですけど、立ち上げですとか、会場をどうしよう、あとは講師の先生どうしようとか、そういったところをお手伝いをさせていただいて、軌道に乗るまでは本当に包括の職員ですとか、あとは役所の方とかにもお手伝いをさせていただいておりましたが、本当に男友会に関しては、会を発足して2年以上が経過しておりますので、もう会の運営、メンバーの皆さんが運営を行っていて、どうしよう、こうしようというのも話し合っていております。なので、私たちのほうでお手伝いさせていただいていることとしては、本当に的が必要だと言われれば印刷をし、名簿の更新をしてほしいと言われ

れば更新をし、そのほか、介護保険のこととかで困っていることがあるとか、最近、何か体調が悪い人がいるようだとか、そういったところの御相談をいただいたり、お声をかけていただくことが多くて、余り堅苦しい関係ではなく、本当に私たちのほうも、たまに顔を出させていただいて、忘れられないようにしているような形ですね。

今後もやりたいこと、いろいろあるよって声をかけていただいているので、またこれからもいろいろやりたいことをお手伝いできればと思っておりますので、よろしくをお願いします。

司会：宗像様、ありがとうございました。

それでは、最後の取組発表は、大師地区の商店街の店舗を活用した取組を実践している、川崎大師まちゼミの会のです。

それでは、大師まちゼミの会代表の星川様、前のほうへお願いいたします。

星川さん：皆さん、こんばんは。ただいま御紹介いただきました川崎大師まちゼミの会の星川と申します。限られたお時間で説明をさせていただきますので、ちょっと駆け足になるかもしれませんが、お付き合いのほう、よろしくをお願いします。

まちゼミは、正式な名前は実は、得する街のゼミナールといいます。誰が得するのか、それは最後のほうでわかってきますので、まちゼミということで進めたいと思います。

今、画面に出ていますように、地域の課題、いろいろあるかと思えます。ひとり暮らしの高齢者が増えてるとか、今の人口は確かに150万人ですが、地域のコミュニティーがどうなってるかなといったときには、非常に心もとないような感じもしております。御近所づき合いも、矢印があるように、少し下がってるんじゃないか、町内会の加入率も同じようです。

一方、今までの御報告にあったように、大師地区も工場の跡地に大型マンションが建設されておりまして、新住民がふえております。そういう方々の交流の場として、商店街が使えないかなというような気持ち。それと、川崎大師地区が愛着と誇りの持てるまちであってほしいなという、そういう強い気持ちから交流の場として商店を考えております。商店街の現状としては、やはり今、空き店舗が増えたり来店者も減っております。大型店、スーパーに人がとられたり、コンビニに人が集中する。また、今は通信販売とかネット販売、そちらにお客様を奪われてる、そんなような状況もあります。商店力をアップしなきゃいけないということも、商店街に対して気づきの機会をこのまちゼミでもって与えていきたいというふうにも考えております。

いずれにしても、この事業、まちゼミ事業は3年間、区役所との協働事業として1年に2回、夏、8月、9月と2月、3月に実施しております。

皆さん、このチラシをお持ちですか。（「後ろのほうに」と呼ぶ者あり）はい。福田市長、お持ちですかね、もし何でしたら配っていただいでください。この、実はチラシが命なんです、まちゼミは。全てこのチラシ1枚から始まっております。キーワードは楽しいということですね。まちゼミって何かというと、お店の中で講座を開いていただくんです。店主みずから、まあ、御商売されてるわけですから、そこで培った専門的な知識とか経験とかノウハウを御披露していただくと。それで、地域の方々がそれに御参加いただく方法としては、この中を開くと、それが一つ一つ全部講座になっております。こういう講座を開きます、日にちも時間もタイトルも決まっておりますので、参加したいなと思うものについて、お電話1本で申し込みができます。それで、どんな人かというのが一番大事で、ここにも顔が大きく出ております。そうですね、こういう人たちが講師としてやりますよと。実は、商店街を皆さん歩かれても、実は商店の中って意外と入らないんですね。コンビニは入りますけれども、専門店、まず店先から中に入ること、物を買に行かない限りは入れません。それをまちゼミは、講座は無料です。しかも、販売行為は一切しません。そういうような

ことで御参加いただくと。

それで、講座の内容は、それぞれのお店に任せるわけですが、人数も実は少人数でやるというのが決まりになっております。私のほうからは、3人から5人ぐらい、一番多くても10人どまりです。実は、多いのはよくないですね。やはり人と人が触れ合うという距離感、飲み屋さん行ったときに、自分の前にいる3人、両脇の人とは話しますが、それ以上増えると話題も変わってしまいます。ですから、まちゼミは時間としては1回につき1時間、長くても1時間半なんですけど、その時間を共有して楽しい時間を過ごす。それには人数を絞って、1人でも2人でも構いません、そういう接点でまちゼミを進めることによって、その後、まちで会ったときに挨拶ができたりですね、今のまちというのは、御挨拶できる人、どのぐらいいますか、なかなかそういうことができなくなってる。そこを、まちゼミを通じて、この間、講座に参加してありがたいとか、そういう関係づくりをしていきたいということです。

では、早速まちゼミの講座を3つほど紹介します。これは寿恵弘湯さんというお風呂屋さんですね、銭湯。川崎区は皆さん御存じのように、昭和40年代にはお風呂屋さんが70軒ほどあったそうです。今はもう20軒ぐらいですけど、全国一の銭湯密集地なんだそうです。今もやっぱりまだ多いと思います。今、9割以上が御家庭にお風呂があっても、銭湯のよさというのがあります。ここで講座を開いて参加された方、実は銭湯に一度も行ったことない方が参加されて、ああ、こういうふうになってる、今、番台も随分変わりましたよね。その参加者の中で、老人会の会長さんがいらっしゃって、今まで老人会では親睦会をスーパー銭湯とか、ちょっと近隣のところに行ってたんですが、何だ、地元で銭湯があって、脱衣場でもって親睦会できるよねと、そういうことで初めてお店のほうにも提案したところ、いいですよ、やりましょうということで、今までそういうことは考えもしなかったらしいんですが、老人会の親睦会が、その後銭湯で開かれ、お風呂も入って帰るというようなことで、銭湯にとってはお客が増えましたし、老人会も身近な場所を確保できた。そういう意味では、ウイン・ウインの関係ができました。

次、これは石渡燃料店さん、大師地区の商店街の会長さんです、連合会の会長さん、今日お見えですんで、この後、補足説明をさせていただきます。テーマは、抹茶を飲みながら大師の歴史を話しましょう。お店は燃料店さんなんですけど、特に燃料のお話をするわけではなく、抹茶を、炭を使うという部分はございますが、大師のまちをより多くの人に伝えていきたいというようなお気持ちが非常に強くて、こういうゼミもオーケーです。これについて、このチラシをご覧になった中学校の先生が、ああ、大師のお話をしてるんであれば、生徒に聞かせたいと。中学2年生は地域学習があるようで、下の写真をごらんいただけるように、これは2年生の一つのクラス、40数名ですけども、お店の中に40数名が入ったというんですけどもね、それで石渡さんのお話を聞いたそうです。もちろん中学校は2年生全員に学校に来ていただいて、御講話っていいですか、お話をする機会もつくったそうです。

チラシをつくった効用というのは、先ほど来、地域包括支援センターの方の御報告にありますが、地域センターのほうに直接この講師の方に御連絡があって、うちへ来てお話をしてくれないかと。町内会の会長さんのほうからも、うちの町会に来て話をしてくれないかと、そういうような意味で、当初、お店に人が来るということだけを考えてたんですが、そういった波及効果というんですかね、そういったことも出てきてます。

次、これはノートをつくらうと、これは千代田ブループリントさんという印刷屋さんですね。印刷屋さんで、やっぱりものづくりという意味で、ノートだったりカレンダーだったり、いろんなものを毎回つくることを講座に取り組んでおります。そうしたところ、やはり参加者の中で、高齢の方が、今、割とはやってますが、自分史というものをつくりたいんだと。写真とか文章で、そんな立派なものじゃなくてもいいけど、そうしたところ、この千代田さんのほうで、じゃあやってみましょうということで、まあ、そこは講座を通じてやはり信頼関係ができて、お願いできないかなと言ったところで、はい、やりましょうということで、

業務の多角化にも結びついて、今の講座、これからやりますが、製版機、製本機というんですかね、そういうものが今までなかったようなんですけど、それも購入して、その分野も力を入れていこうという、そういうようなウイン・ウインっていいですかね、関係もまちゼミから生まれております。

この後は、ちょっと駆け足ですが、まちゼミの様子を何しろ皆さんにご覧いただこうと思います。これも3年前ですかね、2年前ですか、最初にまちゼミをやろうと思ったときに、商店街の皆さんにお集まりいただいた説明会です。

はい、これも講座ですね。下には講座のタイトルが出ております。括弧内がそのお店ですね。これ、タイトルは皆さん、店主が決めるんですね。ここが、ある意味では、そのタイトルでもって応募してくるかが決まりますので、はい、こんな光景。

はい、次。これは忠ぶねさんという、押し花の先生なんですけど、これは。

司会：そろそろお時間です。

星川さん：はい。じゃあ、次に行きます。これは学習塾ですね。はい、次に行きます。これはぬか床づくり、お米屋さんです。非常に人気の講座です。これは大師節という古民謡の、肉屋さんなんですけれども、古民謡を伝えたいということでやっております。はい、次です。これはビューティーサロンですけど、シャンプーの仕方講座。はい。これは神社ですけども、箸の持ち方とか、食事作法など。はい。これは料理屋さん、料亭ですけども、おすしのつくり方教室。はい。これはバッグをつくっている方が、ポーチをつくりましょうと。はい、次です。これはアロマですね、なんちゃってアロマという。はい。これはヨガ教室ですね。これも友達参加でヨガ教室。はい。これは、はりきゅう院さん、足がつるんでという。はい。これはパン屋さん。はい。これは化粧品屋さん。はい。これはまち歩きしたときですね。はい、次。これは書道教室。はい。これも書道ですね。はい。これは漫才講座をされてます。はい。これは喫茶店ですね。はい。これはマッサージ、アロマですね。はい。これも学習塾です。はい。これは歯医者さんですね。はい。これは信用金庫さん、お札の数え方ですね。はい。これは直前の研修会、意思疎通をしっかりとって取り組もうと。はい。これは表紙の写真を撮るため、朝8時に集合したというものです。はい。これは結果報告会というのもやっております。どうだったということ、情報共有をしています。はい。これは最後、これはチラシですね。これを小・中学校、大師地区6校ありますので、児童生徒全員に、また、新聞折り込み等入れております。町会も大師地区23町会の協力を得て、全戸配布なり回覧板配布をさせていただいて普及を図っております。以上です。

司会：星川様、ありがとうございました。

続きまして、大師地区商店街連合会会長としてまちゼミの運営に携わるとともに、まちゼミ参加店舗の一つとして地元中学生に対する歴史講座も行われました石渡様から簡単にコメントをお願いいたします。

石渡さん：石渡燃料店の石渡と申します。

ただいま映っているのは、川中島中学校の中学2年生の子供たちが、私の話を聞いた後、まちを勉強して歩きたいということで、まち歩きをした結果、こういう疑問点があるというふうなことを話し合いをいたしました。私たちから見ると、大師も大分空気がよくなったと思うんだけど、緑が少ないとか、家が密集してるとか、道路が狭いとか、思いも寄らない提案がありまして、大変びっくりいたしましたけども、まあ、やはり若い目で見ると、同じ姿勢でも大師の地域を違った目で見るということで、大変勉強になりました。

まちゼミといたしましては、大師地区のほうが、今、商店街がやはり少し力を落としておりますので、その中で活性化をしよう、力をつけようということで、星川さんのほうから提案があって、商店街が協力しているということなんですけども、まちゼミをやりまして、商店街の店主も勉強いたしました。だから、それが発表できるということがうれしいということ。また、それを聞いた消費者の方たちが、いい話を聞いたということで、店主であり、聞いた消費者の方も大変喜んでと。アンケートをとると、90%以上が大変よかったというような提案をいただいております。ですから、まちゼミをやったということは大変いいことで、私たちも勉強になって、これはできれば継続したいというような形でございます。はい、以上です。

司会：石渡様、ありがとうございました。

それでは、これからの時間は、発表いただいた取組をもとに意見交換を行っていただきますが、多くの皆さんに御発言をいただきたいと思っておりますので、1回当たりの発言が余り長くなり過ぎないように御協力をお願いいたします。

それでは、ここからの進行は市長をお願いいたします。

お願いいたします。

市長：それぞれの皆さん、発表ありがとうございました。ものすごくおもしろかったです。とても勉強になりました。ありがとうございました。

まず、ちょっと一言ずつコメントさせていただきたいんですけども、若林さんの、まず笑うヨガ、これすばらしいですね。私も思わず本気で笑ってしまいましたけども、こういう取組が、1人でやろうと思ったんだけど、いろんな人の関係者が出てきて、やるたびにどんどん広がっていくという感じが、ああ、つながるって、こういうことかというふうな感じさせていただきました。もっとこれ、普及させてもらいたいなというふうに思います。

実は、次の内野さんのところですね、人口が富士見一丁目地区で1,900人ぐらいのところ、1,500人がマンションの住民の方。

内野さん：550と250。

市長：そうですね。ですから、今後の課題としてあったのが、若い人たちというふうな話があったんですけども、実はこのヨガのこと、笑うヨガ、これ若者の、子供たちにもすごいいいんじゃないかなと。親子でやるとかというふうな、何かコメント書いてありましたよね、スライドでも。こういうふうな、高齢者だけじゃなくて、マンション住民の中で多い若者と町会をつないでいただく、そういった何か一つのツールになるのではないかなというふうにとっても思いましたけど、後ほど。じゃあ、せっかくですからコメントいただいちゃおうかな。

若林さん、どうですか、子供さんたちに、親子だとか。

若林さん：子供でも、小さい子だったら、保育園児とか幼稚園児だったら、この笑いヨガ、入れるんですけど、小学生になってしまうと、もう照れがあって、小学生、中学生はもう照れがあってできないんですよ、割と、かえって。小学生の低学年はいいんですけど、もう高学年になると、こんなのやってらんないわという感じで入れないんですけど、大人は大丈夫、割と入ってこれると思うんですけど。

市長：ああ、なるほど、低学年ですね。

若林さん：そう、低学年は大丈夫なんです。

市長：じゃあ、親子で低学年で、低学年の親。

若林さん：そう。だから、低学年のうちからやれば大丈夫なんですけど、いきなり高学年の子にやれと言うと、これできないって。

市長：確かに、ちょっと照れが出てくるかもしれませんね。

若林さん：そうです、すごい照れが出てくるんです。

市長：でも、そこをターゲットにするだけでも、内野さん、いいかもしれませんね。

内野さん：そうですね。こちらの方は、二度ほどうちのほうで来てもらってるんですが、たまたま高齢者、僕らが対象になっておまして、認知症じゃないけども、そういうとこでお世話になってます。わかりますよ、本当にすごくて。帰ってから考えます、またいろいろと。

市長：これすごいよかったですね。

栗原さん、どう思います、この若い世代をつなげるツールとして。

栗原さん：はい、とてもいいと思います。笑いはね、すごく自分も解放するし、ほっとしたことでつながっていくというのはね。

市長：いや、内野さんの発表ですごくよかったな、すばらしいなって思ったのが、決してマンションの人たちを排除しないというか、私たちはいつでもウエルカムですよということで、投げかけを続けると。で、入ってくる人たちはウエルカムよという形で、本当に顔の見える関係をつくって、まあ、よかったらどうぞというふうな形で、遠ざけるのではなくて、むしろ中に入れてくださいというふうな形でやるというふうなのがすごくすてきなというふうに思わせていただきました。ありがとうございます。

櫻井さんから御紹介いただいて、下並木町会の活動で、大規模マンションで、これは本当に、逆に最初から大型マンションは入るなよと、町会に。これは今日は全町連の会長、島田会長もお見えですけども、実は川崎、このいろんな大きなマンションが建ったときに、建ってしまった後だとなかなか難しいということで、建つ前にディベロッパーに規約の中に入れてというふうなのは、これがもうポイントだということは、かなりその町会の皆さんと話していて、ああ、そうだねと。

だから、こういうのは、それこそ町会長さんと、あるいはディベロッパーの皆さんとかに、少し区が、こういうふうな形で、御協力くださいというふうな形でサポートできれば、もっといいかなというふうに思ったんですけど、そのまさに先行事例として成功した形ですよ。

櫻井会長は、マンションにお住まいですね。

櫻井さん：はい。

市長：相馬代行はマンションですか。

相馬さん：マンションじゃなくて。

市長：一戸建ての。

相馬さん：そうです、一戸建ての。

市長：もともとお住まいの。

相馬さん：そうですね。

市長：そうですか。

なるほど、これもまた、ちょうど18年のときに建って、一緒になろうといったときに、相馬会長もいらっしやっただ。

相馬さん：ええ、私もいました。そのときは副会長でやりましたんで。

それで、やっぱり一番大変なのは、先ほどもちょっと言いましたが、中に入ってパイプ役ですか、だから、その方が一番大変。町会とマンションの交流をする場でパイプ役をやってくれたのが、櫻井さんが非常に骨を折ってくれて。それで、今のところはいい感じにいつてるわけですね。

市長：やっぱりうまくいつてるどころ、今日お集まりの皆さん、そうですけど、うまくできてる場所は、必ずキーマンがいますね。

相馬さん：そうですね、それが一番大事だと思います。

市長：キーマン頼りにしちゃいけないと思いつつも、しかし、必ず成功してる場所にはキーマンがいるというふうに、本当にどこのところを見ても思いますね。そういう意味では、櫻井さんの積極性がすごくうまく功を奏したということですね。

櫻井さん：私だけじゃなくて、今日は一緒に来ております……

相馬さん：ああ、今日は若手がありますんで、ちょっと一言、堀井さんって。

櫻井さん：私が理事長やってるときにね、副理事長と一緒にこの若さでね、一緒に。

市長：堀井さん、大分若いですよ。

相馬さん：孫世代。

櫻井さん：孫ぐらいの世代ですね。

市長：お孫さん世代で副理事長をやって。

堀井さん：はい、一番最初にたまたま縁があって、櫻井さん理事長で、その下で副理事長をやらせていただくことになって、一緒にそのとき町会役員のほうに入れさせてもらったという経緯があります。

櫻井さん：いまだにまだやっていただいて、12年目ですから。

市長：今も役員やっておられるの。

堀井さん：はい、今も継続して。

市長：町会の役員もやっておられるんですか。

堀井さん：はい、町会の役員を。

市長：町会の役員。

櫻井さん：マンションの管理組合は1期2年ですから、どんどん変わってます。

市長：ええ、これ今、堀井さんのお顔、映ってますかね。皆さんにもすばらしい、見ていただきたいですね、本当に。どういうきっかけで。

堀井さん：まあ、最初は、さっき言ったように、理事長がいて、私、副理事長をやらせていただいたんですが、そのときの町会長がマンションから役員を出してほしいというのをお話もらっていて、とりあえずは理事長と副理事長というのは当然入んなきゃだめだよって、ある意味、自分から手を挙げたわけじゃないんですけども、それがきっかけになって実際やり始めたというのが大きなきっかけです。

市長：なってよかったですか。

堀井さん：おもしろいですよ、なかなかやらないとわからないこと、いっぱいあるので。

市長：この楽しさというか、同じ若い世代にどうやって伝えればいいですかね。

堀井さん：正直、私も入るまで、町会って正直、あんまり正体わかってなかったんですよ。ただ、うちの町内会は、ものすごくやりたいことをやらせてもらえるありがたい空気を持っていて、やっぱり自分たちのやりたいことをやらせてもらえるというのがものすごく大きくて、それでやっぱり周りにも声かけやすいです。そういう、昔からやってる方が、本当に我々を心から受け入れてくれてるというのが一番大きな要素かなと思いました。

市長：何か、取組見ると、すごくカリン収穫祭とか。

櫻井さん：はい、下並木の売りでございます。

市長：そうですね、餅つき大会って、子供さんたちがすごく喜びそうな取組もされておりますけど、これも、それこそ若い世代から出てきたアイデアですか。

堀井さん：そうですね、もともとこの餅つき大会って、身内だけでやってたんですけども。

市長：マンションの中で。

堀井さん：町会のほうでやってたんですけども、せっかく人がいてノウハウもあって道具もあって、ただ身内だけじゃもったいないので、せっかくだから子供たちも餅つき体験してもらおうという、このきっかけで、子供たちにも来てもらって、そこに親も当然来るので、そうすると子供たちだけじゃなくて、我々も親ともコミュニケーションがとれるというおまけつきで、うまいこと回っている。

相馬さん：餅つき大会は、恐らく45年ぐらいやってますね。

市長：45年、餅つき大会。

相馬さん：うん、毎年。45年。下並木に公園ができたときから始まって、それからずっとやってるから、毎年やっております。

市長：いやあ、すごいですね。いや、これは本当にオール川崎でモデルにしたいような取組ですよ。まあ、最初から規約に入っていて、マンションの方も町会に入る。そして、取組を通じてマンション住民と旧住民が融合していくと。若い世代も、まあ、かなり先輩の世代も一緒に取り組んでいくという、いい循環が。会費も増えるし、町会の会費も増えるから、いろんなことに還元できて、いいスパイラルが回っているなというふうに思いました。こういうのをぜひ、これからマンションができるころは、集中的にこういう取組を、川崎区もそうですけども、ほかの区でも同じ問題抱えてますので、こういう事例をモデルとして皆さんにお伝え、私からもお伝えしていきたいなというふうに思います。ありがとうございます。

山崎さんの男友会、これもまたすばらしい、増えて困っちゃうなって言いながら、ものすごいうれしそうでした。いやあ、すばらしい、展開がすごかったという、すばらしいのは、区の川崎市のやってる介護予防の運動がすぐ終わっちゃって、これはとんでもないという話で自らやっちゃったという。

山崎さん：行くところがないんですよ。それならつくっちゃおうかという話で。

市長：それがすごいですね。

山崎さん：それで、初めは自信がなかったんですけどね、いろいろこちらの協力なんか得て、結構人数が集まり過ぎちゃうというのも困りますね。

市長：でも、これがすばらしいのは、人数増えたら、結果やめるんじゃないで、どんどん大きな方向に前向

きに前向きに展開されていく。

山崎さん：そうですね、また新しい会場を紹介していただいて、そっちもできるということですよ。

市長：それは、いい方にめぐり会いましたですね。本当に地域包括で御支援、こういう形で提供してもらおうというの、本当にありがたいです。

山崎さん：というのは、我々、最初ちゃんと、なかなか会場が大変なんですよね、探すのが。それができないんですよ。タイミングよくいらっしやって、さっそこに入っていただけということがね、私どもの一番の。

市長：ちょっと僕、可能性を感じたんですけど、今日は御披露いただけなかったんですけど、あの吹き矢は、これは結構いろんなところでできるんじゃないかなと思いますね。

山崎さん：それでね、今、子供用の吹き矢でやるところもあるそうです、子供用の。

市長：子供用の吹き矢ですか。

山崎さん：ただ、我々は老人用ですけどね。

市長：でもあれですね、本当に子供さんも高齢者の方も一緒に遊べるというか、ちょっとルールをというか、ハンディーとか。

山崎さん：ハンディーを変えればね、でもちょっと無理かな。

市長：今度お会いしたときには、できてるかもしれませんよ。

山崎さん：そうですね。

市長：いや、いいと思いますけどね。とにかくやっぱり展開がすごくいいなと思いました。体操から始まって、体操が終わったらマージャンになったり。

山崎さん：時間潰しですね、我々、男性は。

市長：これがスポーツ吹き矢まで展開していくというのは。

山崎さん：ある日その、いいんだよって、年寄りにはって言われたから、やろうかという話になったんですけどね、タイミングがうまく行って。

市長：でも、そうやって活動を広げていくことによって、あっ、吹き矢ならできるとか、マージャンならできるとか、体操には参加しようとかという、そういう幾つものメニューがあるというのは、そういう意味で

は。

山崎さん：男友会に来なくても、マージャンには来るよという奥さんもいるわけです。奥さんとか、まあ、男友会なんか来れないですよ、男の体操だから。

市長：ああ、なるほど。

山崎さん：ただ、マージャンやってるんなら入れてくれって行って、ここに入ってくる。

市長：すごく素晴らしいですね。これもでも、あれですね、山崎さん、いろんな方に、ビオラもそうですが、関わることによって場所が広がったりとか。

山崎さん：今回はそうですね。

市長：ですから、今までの取組もそうですけども、決して御自身の活動だけでは広がらなかったところが、ほかの団体だとか支援してくれる方に接することによって、活動の、何というか、種類が広がったり、場所も広がったりという形で。

山崎さん：そして、新聞社が4社ぐらいここに見に来たんですよ。それで、出ると、遠くの方というのが来て。

市長：新聞で出たのは吹き矢ですか。

山崎さん：男友会。

市長：男友会で。

山崎さん：すると、ほかへ行くと女性が多くて、俺1人だよという方が多いんです。それなら、男だけで、という。

市長：ええ。

結構、ビオラの宗像さん、女性は意外とコミュニケーションがとるの上手な方ってすごく多いと思うんですけど。

宗像さん：ええ。

市長：男性の方って、意外と難しいですよ。

宗像さん：そうですね、そういう町なかの体操教室ですとか、体を動かしたほうが良いということで、行ってはみるんだけど、やっぱり女性が大多数で、男は1人いるかな、2人いるかなという形でぼつんとしてしまって、やっぱりというのが多くって、そんな声から男友会のほう、じゃあやってみれば良いんじゃない

いという形で立ち上げて、本当は最初、5人という方たちで、ちょっと寂しかったんですけど、今本当に軌道に乗って。

市長：いや、でも間違いなく、男友会だから、ちょっと恥ずかしくなく入れるとかという、そういうのありますよね。ちょっと女性だけのところに男1人入っていくって、なかなか厳しさありますよね。そういう意味では、新しい、何でも僕、まざったほうがいいんじゃないかというふうに思っていましたけど、決してそうじゃなくて、男だけの集まりというの、また助かるなという方もとてもいらっしゃるということですよね。

山崎さん：表出てね、体操が人気になってね、女の子が入れてくれってお願いしたらね、断ったんです。

市長：女性お断りなんですか。

山崎さん：会長がね、瀬戸さんという方なんですけどね、ちょっと体が調子悪くなってきました。瀬戸さんという方がね、だめだよ、女入れたらみんなとられちゃうよって。名前が男友会だから、体操は男だけです。

市長：なるほど、ありがとうございます。いろいろとありがとうございます。

川崎大師のまちゼミの取組で、川崎大師の周辺って、すごい今はマンションが増えてたり、新しい住民の方というのが急速に増えてますよね。そういう中で、商店街、新たに入ってきた人たちも、この大師がふるさとなるような取組というので、これは僕、ちょっといっぱい行きたいというゼミ、たくさんありましたですね。これは絶対おもしろい。シャンプーの仕方なんて、教えてもらいたいと、プロの方にというふうに思うところで、ぬか味の使い方とか、ぜひ教えてもらえたらいいという感じで、これすごいいいですね。もともと、どうしてこれをやろうというきっかけは。

星川さん：前提は何しろ商店街が元気がないんで、私も商店街の中で育ってきたものですから、このままいると5年後、10年後、商店街が本当にシャッター通り化しちゃうなど、そういう危機感がもともとあって、それで地域おこしはいろいろな形でやってたんですね。

市長：ええ。

星川さん：イベントもやっています。でも、イベントというのは、実はその店主が外へ出ていかなきゃだめなんですよね。そうすると、今、従業員もあまり皆さんいませんから、イベントも停滞化していくと。

そういう中で、じゃあ自分のお店なら、これできるわけですよね。それと、地域の方、長年商売やってても、実際、自分の店、知らない方というのはすごく多いんですね。その辺の接点づくりというんですかね、区民も、あそこどんな人が店主なのかなど、そういう触れ合いの機会をまちゼミを通じてできると。それで、やっぱりある意味では、全体で見るとカルチャースクールみたいな感じで、いろいろこうやって出し物があれば楽しめるんじゃないかなと、そんなところですね。

市長：これ、星川さん言われてた、肝はこのチラシというふうにおっしゃってましたけど、これすごくいいですね。みんなにこやかに笑っていて、これは入りやすいですよね。

星川さん：それ、写真、私が撮ってるんですけど、なかなか男性が笑ってくれないんですよ。笑ってって言って、だんだんこわばってきちゃったりするんですよ。

市長：いや、でもこの笑顔の写真見たら、入りやすいですよ。あっ、あそこのお店のおじさん、こういう人なんだというのが、ちょっとこれ見ただけでも、とっても入りやすくなってますよね。

星川さん：何となくね。何か子供たちに、あっ、この人見たことあるとかって、よくまちの中で言われるらしいんですよ。だから、今、もうあんまり悪いことできないねという話に、まちゼミチームの中ではなってるんですね。

市長：これ、大体2月と、先ほどチラシ見ました、2月と8月ぐらいに年2回。

星川さん：そうですね。やっぱりどっちかという、閑散期というんですかね、お店にとって。昔は二八って、今は必ずしもそうじゃないんですけど、ですから、その時期を狙ってやっています。

市長：梅本さん、ちょっとコメントいただいてよろしいですか。同じ大師で、このまちゼミを。

梅本さん：私は、川崎区に3年前に移ってきました、それまでは6年間、多摩区のほうに、川崎の北に住んで、やっぱり最初思ったのは、全然同じ川崎でありながら、こんなに違うのかという感じを受けて、まあ、お祭りとかね、最初はたまげてしましまして、4月のお祭り、有名なお祭りありますよね、あれは北ではないなと思って、これが川崎だと。私は川崎のイメージというのは、小学校時代の教科書でしかなかったんで、あのときのイメージしかなかったんですけども、今全然そのイメージが変わってきて、実際、住み始めて3年たって、実に住みやすいまちだなと。非常に温かくて、下町のような感じがするまちで、もう最近はまちゼミの中でもいろいろやらせていただくようになりまして、もう川崎大師、大好きになりました。

市長：ちなみに梅本さんは、まちゼミで何かやっておられるんですか。

梅本さん：二つやってるんですけど、本業が行政書士をやっておりまして、遺言についてと、高齢者の方が多いので。そのもう一つの副業が漫才師。

市長：漫才師ですか。

梅本さん：同じ士業なんですけども、行政書士と漫才師ということで、市民のための漫才講座ということで、我々は漫才を提供するだけではなくて、皆さんに漫才をやってもらおうということで、今回も、まあ、相方が多摩区の人間なんですけども、2人で漫才教室をやりますんで、市長もいかがですかね。市議会で笑わせる。

市長：怒られるだけだと思う。ありがとうございます。

梅本さん：本当すごく川崎大師、いろんなところで、今日見ても、この間も慶友会さんで漫才やらせていただいて、しおんさんでも、私、ちょっと宣伝になるんですけど、川崎セブンスターという、いわゆる川崎の

吉本興業みたいなエンターテイメントグループを目指してるんですけども、介護施設中心にいろいろパフォーマンスやって、しおんさんでも毎年のようにやらせていただいて、今度も東海道川崎宿2023の祭り、池田さんがやられてるのがあって、そこでも稲毛公園で漫才をやることになりまして、すっかり川崎区に溶け込んでしまいました。町会でも新年会でもやらせていただきました。

市長：ああ、そうですか。

梅本さん：去年、川崎セブンスターofセブンの七つ、七つの区を星のように輝かせたいという気持ちで5年前につくって、去年は35か所でやらせていただきまして、漫才師やってるのか行政書士やってるのかわからなくなってきちゃって。

市長：ありがとうございます。

石渡会長、こういう、また新たな新住民というか、大師の新住民がこうやって新たに加わっていただいて、まちおこしに活性化につながっていただいているというので、少しうれしいですよ、これ。

石渡さん：そうですね、みんなが協力してくれる、星川さんのほうも、まちゼミのほうの提案があったし、梅本さんのほうは、そういう漫才を通じて元気にももらえるということで、大師はみんなの協力を得て大変いいですね。大きなマンションが建ちますけども、まあ、比較的仲よくやってくれるところがありますね。

市長：今日傍聴席のお顔を拝見しても、町会の役員やっておられる方もいれば、本当にいろんなイベントを企画されてる方もいれば、寺子屋やってる方もいればというので、いろんな方がいらっちゃって、本当に心強いですけど、例えば、寺子屋の事業で子供たちにアンケートをとってみると、何が一番うれしかったかという、それは親や先生以外の大人と話ができたとというのが一番喜んでるんですよ。約9割の子供たちが、そのことが一番の喜びになってるんです。

石渡さん：川中島小学校もですね、古民謡じゃない、昔の遊びを教えてほしいというような形で、町会のほうへ頼まれまして、町会からベーゴマとか竹トンボとか、そういう昔の遊びを教えに行ってますね。学校のほうもそういう体制がいいですね。

市長：うれしいですね。ですから、いかにして多世代でつながっていくかということもそうですし、川崎区は、地域特性として、川崎市内7区の中でひとり暮らしの高齢者というのが一番多い区なんですよ。大体今、約1万2,000人ぐらいいらっやるとのことなんです。高齢者の4人に1人が、今ひとり暮らし高齢者ということに川崎区はなっていて、その数が1万2,000人という。小さなまちだと、まあ、とはいっても100人や200人やという数なのかもしれませんが、川崎区だけでひとり暮らしの高齢者の方が1万2,000人いるということですね。ひとり暮らしの高齢者は、何も今すぐにケアが必要な人とかでは全然ないですよ。なんですけども、しかし、何かにつながっていないという方というかな、比較的多くなってくるということですから、何とかいろんなチャンネルを使って、その人たちにつながっていくということというのがとても大事で、例えば、先ほどの山崎さんの、吹き矢でつながるかもしれないし、あるいは体操でつながるかもしれないしヨガでつながるかもしれないというふうな形で、いろんなチャンネルがあればあるほど、まちゼミに参加していただいて、ああ、石渡さんというふうな顔の見える関係ができれば、それだ

けで、ああ、自分は1人じゃないんだということになるし、地域でみんなの中で見守れるというか、強制的につながるというよりも、緩やかな形で顔の見える関係ができてるというのは、やっぱり子供であっても高齢者であっても障害者であっても、このまちに住み続けられるなというふうな、そういうふうな雰囲気が出ていくんじゃないかなというふうに思うんですね。

これ、こんな僕、話してましたら時間がもう既にオーバーになっちゃってるんですね。皆さんのお話がすばらし過ぎて聞きほれてしまいましたけども、本当にすばらしい活動をしていただいていることに改めて感謝を申し上げたいと思いますし、今のお話をそれぞれ聞いていただいた中でも、もう既につながっているところもあれば、新たにこれつながれるんじゃないかと。あるいは、ほかのところがやってる取組というのは、あっ、うちもやったらもっとよくなる、活性化ができるかもしれないという、そういうヒントがあったのではないかなというふうに思います。

今日、これ、インターネットでも流れておりますが、川崎市内、川崎区だけじゃなくて、同じような課題というのは全区であります。新しいマンションが建ち、そして町会にもなかなか加入率が減って行って、地域のつながりが減っていると。その中でも、地域包括ケアシステムじゃないですけども、どうやってつながっていくかということを試行錯誤してやっていかなくちゃいけないんですが、こういう皆様方のようなキーマンがいると、その輪がどんどんどんどん広がっていくと、いい形に地域になっていくんじゃないかなということを、希望の持てる、とても希望の持てる取組だと思えますし、こういうのもみんなに知らせていきたいなというふうに思っております。

今日は御参加いただきましたことに改めて感謝申し上げて、そして、これからも引き続き、さらにいいにつなげていただくようお願い申し上げます、これ、もう終わらないといけないんですものね。ということで、マイクは司会に戻したいと思えます。本当にありがとうございました。

<閉会>

司会：以上をもちまして、第33回区民車座集会を終了いたします。

お帰りの際は、受け付け時にお渡ししたアンケートへの御協力をお願いいたします。アンケートと、それからバインダーは、お帰りの際に係の者が回収いたしますので、よろしくをお願いいたします。

本日は御参加いただきました参加団体の皆様、それから、御来場いただきました傍聴者の皆様、まことにありがとうございました。お忘れ物のないよう、気をつけてお帰りください。ありがとうございました。